

2017年12月23日

文書教材  
英会話道場イングリッシュヒルズ

## internationalization の概念

現代の国際社会においては、企業体・個人にかかわらず、年々ますます「ボーダレス化」(borderless)が進み、世界中の「企業」と「企業」、そして、「個人」と「個人」の間に、いわゆる『国境』がなくなっています。

この地球上において、文明、文化、人種、民族、国家、文化、思想等を超えたヒューマン・コミュニケーション（様々な相違を超えた、本来として人間同士の交じり合い）は、実に、日常茶飯事のこととなりました。本稿では、人類史におけるこのような時代と社会の急速な変化・推移を視野に入れ、今再び、「真の意味での『国際化』」について考えてみたいと思います。

受講生の皆さん、まずはじめに、今、再び、「国際化」(internationalization)の概念について考えてみましょう。

英語の **inter** は、「間、中間、相互」を意味します。**nationalization** (名詞) は、「主権を有する一つの国とする、国有化する、国営化する」という意味を成す動詞・**nationalize** が名詞となった語です。したがって、国際化を意味する語・**internationalization** (名詞) は、“文字通り”、「国と国との相互関係を築く」という意味となります。

「国と国の相互関係を築く」という行為、それは、「一つひとつの国々が他の国々との相互関係を築く」ということです。このことは、決して政府のみの問題ではなく、市民レベルにおいても、それぞれの組織体・個人が、国境を越えて他国における必要な組織・個人と相互関係を築くということでもあります。

「異なる国同士の信頼関係を構築する」という目的を実現するには、一国の政府のみが、他の一国の政府と妥当と思われる相互関係を構築しても、それで十分というわけではありません。現実問題としてこのことを考えてみると、一国と一国の市民社会において活発な交流が図られることなしには、より良い相互関係を構築することはできないでしょう。

つまり、真の意味での国際化の実現を図るには、"頗る草の根的に"、人々における相互コミュニケーション自体が、「市民レベルの立ち位置」において日常的に行われることが必要となるわけです。

異なる国同士において、人々が相互に交流を図るには、まず第一に、「自分の国についての十分な知識」が必要となります。これを日本人の場合で述べるならば、日本の文化、歴史、習慣、伝統、価値観、思想、宗教等、日本についての様々な知識が必要となります。

通常の日本人であれば、人から、「あなたは、自分の国についてどれくらい知っていますか」という質問を受けたとき、大抵の人は、「私は日本で生まれ日本で育った"生粋の日本人"だから、日本のことはたくさん知っています」と答えるでしょう。

しかし、実際、そのように明言する日本人でも、いざ、<外国人から日本の文化や歴史について尋ねられる>という状況に遭遇すると、その本人自身が、

- 1) 「日本について詳しく説明するほどの"知識"・"心の準備"がなかったこと」
- 2) 「外国人に説明する以前の問題として、日本人である自分自身、実は、日本のことをあまり知らない」

ということに気づきます。ここまで話が進むと、「国際人とは、一体どのような人間像を指すのか」について次第に見えてきます。

国際人とは、その概念についての根本の根本を述べるならば、「地球に存する一人の人間として、自分の国の文化・歴史等について十分に学び、それを前提として、他の国々の文化・歴史等を学び、日々、自分なりにそれらを理解するために努力を続けている人」であると明言することができます。

つまり、真の意味での国際人とは、自分の国、そして、他の国々について理解するための「教養」(culture)を備えている人、即ち、「教養人」(cultured person)を指すわけです。

本来、「国際」という言葉の概念の中には、何らの実体的な存在物はありません。国と国の間は、実のところ、「空っぽな状態」です。

例えば、あなた自身、飛行機で「成田からロスアンゼルスに飛ぶその『時間的空間』」において、現実のこととして、この「空っぽな状態」「無の状態」を経験します。

飛行機に乗る前まで、即ち、成田を発つ直前まで、日本人として日本の生活を謳歌していたとしても、いったん飛行機に乗り、そして空を飛ばば、空の上では「空っぽな状態」となります。その後、無事にロスアンゼルスに到着し、実際に、自分の足で「アメリカ本土の土」を踏まない限り、「アメリカで、必要な相手と、必要なコミュニケーションを図る」という「予定」(plan)が「現実」(reality)となることはありません。

#### ◆講師の助言

訪れる国で現地の人々とより良いコミュニケーションを図るには、まず第一に、自分の国について十分に理解しているという前提の下、自分自身が、

- 1) 「その国の文化・歴史等について十分に学んでいる」  
あるいは、
- 2) 「これまでは学んでいなくても、“極めて建設的に”これから学ぼうとする心構え・意欲がある」

ということが、相互に、より良いコミュニケーションを図る上での必要不可欠な条件となります。

internationalization (国際化) とは、広い意味で言うならば、“cultivation” (教養化) を意味する概念です。このことから、「国際人」(internationalization)とは、実は、「教養人」(cultured person)を指すこともわかってくるでしょう。

迎える一年一年において急速にボーダレス化が進んでいく現代の国際社会において、「何と  
してでも国際人にならなければ、この時代を勝ち抜くことはできない」と考える人は多い  
でしょう。そのように考え、熱心に英語を学習する日本人が増え続けています。しかし、  
本当に大切な学習とは、実は、「自分を知り、自分の国を知る」ということであると、わた  
くしは明言します。

鍍金（めっき）は、言うなれば「上辺だけ」のものです。鍍金は、すぐに剥がれます。鍍  
金よりも、まず第一に、一個の人間としての「中身」、即ち、「教養」(culture)をしっかりと  
確立する人が、このボーダレス国際社会を生き抜く存在者となることができます。

受講生の皆さん、生井利幸の厳格指導の下、「教養人」になることを目指してください。何  
をどのように勉強していくべきかは、すべて、わたくしが教授していきます。